

第 26 回公開教育研究会報告

研究部 佐藤 健太

1. はじめに

これまでの本校の公開教育研究会は 2016～2018 年度に SGH（スーパーグローバルハイスクール）生徒成果発表会と兼ねる形で 3 月に実施してきた。しかし、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定された 2019 年度の 3 月に予定していた SSH 生徒成果発表会は新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止を余儀なくされた。SSH2 年目である 2020 年度は例年 3 月に実施している SSH 生徒成果発表会とは別に、単独で 11 月に公開教育研究会のみを行う予定だったものの、この年も同様に感染不安のために対面実施に踏み切ることはできなかった。そして、2021 年度はオンラインによる開催にこぎつけ、翌 2022 年度はついに 4 年ぶりとなる対面実施、さらに公開教育研究会単独での開催は 2015 年度以来、実に 7 年ぶりでの実施が叶うこととなった。

今年度の第 26 回公開教育研究会は 11 月 19 日（土曜日）に「国語」、「数学」、「総合的な探究の時間」の 3 件の授業を公開し研究協議会を行ったほか、ランチョンセミナー、講演会を実施した。新型コロナウイルス感染症感染防止のため、外部からの来場者は教員および教育関係者に限定し、各授業に参加可能人数の上限を設けることとなった。また、同日には第 2 回 SSH 運営指導委員会（非公開）を開催した。

2. 実施概要

1. 日 時 2022 年 11 月 19 日（土） 9 時 00 分～15 時 45 分
2. 対 象 教員および教育関係者
3. 形 態 対面による授業公開および研究協議（感染状況によりオンライン切替）
4. 参加費 無料
5. テーマ 「新学習指導要領で培うコンピテンシー」
6. 時 程

9:00 - 9:20	受 付		
9:20 - 9:30	開会式・挨拶		
3 年 9:30 -10:40	【各教科・科目】70 分 3 年 持続可能な社会の探究 (総合的な探究の時間) (飯島・山川・朝倉)	【各教科・科目】50 分	
1 年 9:50 -10:40		1 年 言語文化 (植田)	1 年 数学 I (三橋)
10:50 -11:50	研 究 協 議		
12:10 -12:40	昼 休 み ランチョンセミナー@合併室（オンライン同時配信@休憩室） お茶の水女子大学副学長 兼 コンピテンシー育成開発研究所長 坂元 章 テーマ「コンピテンシー育成開発研究所の取り組み」		

	お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所 特任准教授 下島 泰子 テーマ「コンピテンシーを伸ばす実践手法」
13:00 -14:30	講演 東京学芸大学名誉教授 元次世代教育研究推進機構特命教授 岸 学 氏 テーマ「新学習指導要領で培うコンピテンシー」
14:30 -14:40	閉会式・挨拶
14:45 -15:45	運営指導委員会（非公開）

3. 参加者アンケートより

教員・教育関係者対象の参加者アンケートより、参観した授業の内訳は「総合的な探究の時間」54%、「言語文化」22%、「数学Ⅰ」24%だった。研究授業参観の際の観点（複数回答可）では、「授業の内容」80%、「授業の方法」64%、「生徒への働きかけ・応答」54%、「生徒の授業態度」48%、「テーマ（コンピテンシー）との関連」46%だった。本校の研究授業に期待すること（複数回答可）では、「自分の授業のヒントとなるような授業」76%、次いで「新学習指導要領の参考となるような授業」68%、「自分の授業に直接役に立つような授業」と「本校独自の授業」がともに42%だった。

研究授業についての自由記述では、「先生が生徒の言葉を大事にしながら授業されていたのが印象的でした。」「単に参観するのではなく、我々もコメントを書き、感想ではない意見や提案する難しさを体験したことは今後の指導に大変役立つ。」といった肯定的な感想が多くみられたほか、研究協議についても「とても有意義だった」78.4%、「有意義だった」19.6%と満足な回答を頂戴した。

ランチョンセミナーについては「とても有意義だった」29.4%、「有意義だった」45.1%と概ね満足な回答を得られたが、「参加しなかった」が19.6%にのぼり、想定はしていたものの昼休憩の時間帯で参加できなかった方が一定数いらした様子だった。

岸学先生による講演会については「とても有意義だった」51.0%、「有意義だった」41.2%だった。「難解なコンピテンシーが先生の穏やかな口調の講話のおかげでよくわかりました。」「学校目標をコンピテンシーに結びつけるためのヒントがたくさんあった。」「大変わかりやすく、ユーモアを交えて解説いただき、楽しく拝聴できました。自分の授業や学校全体でもコンピテンシーを意識した授業づくりに努めたいと思います。」といった声を多数いただき、好評であったことがうかがえた。この場を借りて、大変有益かつ参考になるご講演を提供くださった岸先生にあらためて深く感謝を申し上げる次第である。

4. おわりに

今年度の公開教育研究会は久しぶりの単独・対面開催で運営側として行き届かない面が多々あっただけでなく、参加人数の上限を設けたため、参加をお断りさせていただいた方もいて、とても心苦しく感じている。それでも、他校の先生方・教育関係者の方々と直接顔を合わせて意見交換や情報共有ができることは有意義であるとともに、我々の取り組みを批評していただけることは非常に励みとなっている。

2023～2024年度は学校事情により、公開教育研究会を開催しない予定である。本校の教育実践を発信する貴重な機会が失われるのは残念であり痛手でもあるが、研究紀要や学会といった別の形での発信活動を推進し、2025年度の再開の折にはより一層充実した教育実践をお見せできるよう引き続き研鑽を重ねていきたい。